

共同研究講座のプレートを掲げる(右から)岩倉社長、佐藤学長、若林孝一副学長



## 「冷えと未病」テーマ

### 弘大とクラシエ 研究講座を設置

弘前大学大学院医学研究科とクラシエホールディングス(本社東京)は7日、弘大で共同研究講座「QOL推進医学講座」の設置開設を行った。体の冷えに関連する研究を起点に、健康でも病気でもない「未病」状態を解明し、生活の質(QOL)改善につなげる。

設置は4月1日付で期間は3年。弘大が2005年度から行っている「若木健康増進プロジェクト健診」のビッグデータを活用して冷えやフレイル(虚弱)を調査研究する。今年の若木健診では冷えに関する聞き取りや、指先の温度、血流の測定を行うことにしている。

研究代表者は同医学研究科の中路重之特任教授。出席した岩倉昌弘社長は「企業の成長を考える上で健康や未病をテーマとした分野が有望と考えている。さまざまなノウハウや知識を学び、商品やサービスを展開したい」と述べた。

同社は、ポリフェノールが多く含まれるゴボウなどに注目した新たな商品開発を進めており、20年にも販売予定。本県の農産業者との協力、取引も構想しているという。

佐藤敬学長は「未病や冷えの重要性は理解されているが、サイエンスの面ではまだ新しい分野。しっかりと成果を出したい」と述べた。企業が弘大に共同研究講座を設置するのは花王やカゴメなどに続いて8例目。(太田佳希)